

平成 22 年 4 月 22 日現在

研究種目：基盤研究 (C)

研究期間：2007～2008

課題番号：19520308

研究課題名 (和文) 上海歴史文化地図の改訂制作とその活用

研究課題名 (英文) revision and application of Shanghai historical atlas

研究代表者 木之内 誠 (KINOUCHI MAKOTO)

首都大学東京・人文科学研究科・教授

研究者番号：50195327

研究成果の概要 (和文)：

1999年に刊行された拙著『上海歴史ガイドマップ』の内容を、新たに公刊された文献資料、その後の現地調査からの資料などによって増補し、現況に合わせた改訂をほどこし、より臨場感に富んだ地図として刊行する。またこれを基にして、ウェブサイト上で紙媒体の情報に加えて音像資料などと総合したハイパーテキスト化された電子地図として公開を開始した。

研究成果の概要 (英文)：

This study enlarged and revised the contents of *Shanghai historical map*, 1999 by documents published newly, and the documents from the later field work to match with the present situation of Shanghai landscape. New edition map is rich in a sense of reality. In addition, I started an exhibition as sound image documents and the Hypertext digital maps on a website.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	600,000	180,000	780,000
2008年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
年度			
総計	1100,000	330,000	1430,000

研究分野：中国文学

科研費の分科・細目：文学・各国文学・文学論

キーワード：中国文学 東洋史 都市文化研究 地図制作 上海

1. 研究開始当初の背景

都市の地図は、描かれた現況の裏側にそれぞれ過去の過去を秘めながら、未来へ向けたひとつの観点ないし、密やかな希望を表明している。東西と新旧の文明が衝突と融合を繰り返し、多元多層の権力と文化が空間的に錯綜し

ながらその繁栄を生みだしてきた上海は、「地図的な」状況が、常に人々のアクチュアルな関心を惹起しつつあった場所でもあった。地図上の一本の線が、時には戦争と平和を分かち、異なった言葉と習慣の見えざる境界線が一本の通りの上に引かれた上海。絶えまな

い変転のうちにあるこの街の記憶と未来を、地図で示したいとの思いをかねてより抱いていた。研究領域である中国文学の研究において、文学作品と空間的場所との関係性についての研究関心を持続してきた研究代表者木之内誠が、1999年に大修館書店より上梓した『上海歴史ガイドマップ』は、幸いにして国内外の多くの読者に迎えられて版を重ねることができた。しかし、刊行以来七年余を経過した研究開始時点において、上海の経済発展はその都市の風貌に、未曾有の激しい変化をもたらしつつあった。上海に関与する人々によって共有されるべき、場所の持つ社会的、文化的な意味は、変貌著しい上海にあって、ややもするといよいよ見えにくく、捉えがたいものとなっていた。実用面においても、街並み景観の激変は、地図の有用性を損なう程度に達していたといえる。そこで、最近の状況に対応した改訂版を製作するとともに、新たにその電子的な媒体による活用をめざした。

2. 研究の目的

本研究は、中国近代の文化的形成、発展を考える上でまたとない重要性をもつ大都市である上海について、その過去と現在を透視し未来を展望する、ビジュアルな情報の一つとしての、都市の歴史・文化に関する地図集を作成し、公開するものである。ますます重要度を増した国際都市となった上海を訪れる旅行者たちに、都市空間の歴史的深層を感得させる情報を提供する。高架道路や高層ビル群の巨大開発が旧来の道路さえも改廃され、文化財指定されていたはずの建造物でさえも一部では破壊を免れないという現状では、マップを手にして現地を歩く旅行者にとって、すでに旧版は十分な使命を果たし得ないものと成りつつあった。現地調査情報他さまざまな新情報による『上海歴史ガイドマップ』の全面的なアップデートの作業が急務となった。

こうした内容面での増補改訂とともに、地図の見やすさや臨場感などを向上させる表示面での技法の開発も、この研究の大きな目的である。3D画像ソフトなどを利用した街並み景観の地図上での立体的表現の導入を試みた。

また、成果の発信の手段として、インターネットのHP上での公開は、情報内容の頻繁な更新が行われうる本研究の性格上、きわめて有用且つ必須の媒体である。旧版の刊行以来、インターネットを初めとする情報通信環境の急激な普及がみられた。新たな情報発信の環境として、webサイトでの成果公開を進める。単に紙媒体の情報をディスプレイ上に移すに止まらず、常時アップデート可能なオンライン・データは、めまぐるしく変わり続

ける上海を対象とした地図情報の提供手段として、まことにふさわしいものであるが、そのための手法の開発が必要となる。これにより、地図上のポイントと文字情報、画像情報を一体化したハイパーテキストとしての提供が可能となる。

3. 研究の方法

初版制作時には、まだ十分に利用できなかった『上海市行号路図録』(上下冊 1947, 1949)が、2004年に復刻刊行されるなど、新たに入手可能となった数多くの資料の活用をはかった。これら文献資料および実地踏査によって得た新たな資料に基づいて、上海歴史文化地図の更新作業を行った。2007年11月、2008年2月、8月、9月、11月の計5回にわたって、上海西南部および東北部を中心とした実地踏査を行った。そのなかでビデオ映像、写真画像の新たな蓄積をはかった。これと並行して、上海市档案馆などでの関連資料の調査収集を続行した。2008年8月には、リヨンにクリスチャン・アンリオ教授を訪問して、上海地図データベースに関する学術交流を行った。このとき提供した地図資料が、アンリオ氏の構築する上海地図情報データシステムに活用、公開されている。

地図の作図には、旧版と同様、2Dグラフィックソフトの「Macromedia FreeHand MX」を主に使用した。印刷の版下製作の最終段階では、これを「illustrator」のファイル形式に変換してデジタル印刷用のデータとした。今回の改訂では、建築物の形状等のより臨場感ある表示のために、「六角大王」などの3Dグラフィックソフトによる立体画像データをpng画像に書き出して、地図上に貼り付けた。

4. 研究成果

(1) 歴史地図改訂版の製作

地図部分の改訂を完成し、解説・索引などテキスト部分の一部増補作業を経て、『上海歴史ガイドブック 2010 (仮題)』の刊行を、2010年夏までに予定している。今回の改訂の要点は次の通りであった。

① 上海の現況を反映した増補改訂

地図に記載される事項の基礎となる項目データベースを拡充し、初版刊行時に総計六千項目程度であったものを、この間の作業を経て約九千項目まで増補した。

都市再開発により歴史的景観の改変が大規模に進行した上海では、近年ようやく現地政府による街並み景観の保護に力が注がれるようになった。これにより大幅に増加した指定歴史的建造物を網羅して地図上にその位置を明示した。初版制作時には、第二次指定までの237に留まっていた「上海市優秀近

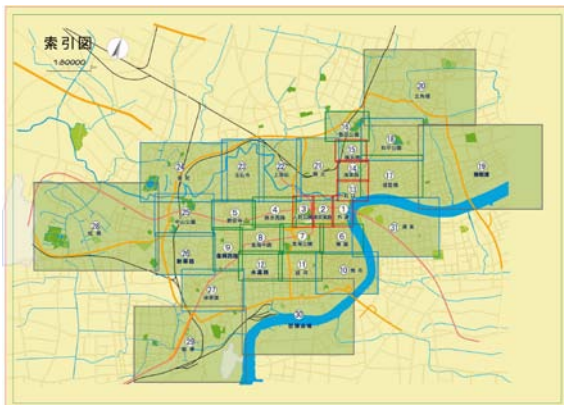
図1 改訂版第1図「外灘」



代建築」のリストは、二度の追加指定を経て、総計 632 か所を数えるに至った。また、2002年に公布された「中華人民共和国文物保護法」の規定によって新たに 635 か所の「不可移動文物」が登録され、歴史的建造物保護への一定の担保がなされるに至った。これらの保護建築物の位置を、訪問者が現地を実際に訪ね当てることの可能な程度の詳細さをもって逐一示した地図は、上海でもいまだ刊行されていない。

個々の点としての建造物保護のみならず、面としての景観保護ゾーン「歴史文化風貌区」が市内 11 か所に制定されたのも、初版刊行後の新たな事態であった。これを境界線と区域内の色塗りによって地図上で明示した。

図2 改訂版の索引図



地図部分の総ページ数は、初版の 64 ページから、68 ページとなった。新たに楊樹浦東部が区分地図のなかに追加され、旧共同租界の全域がカバーされることになった。また、

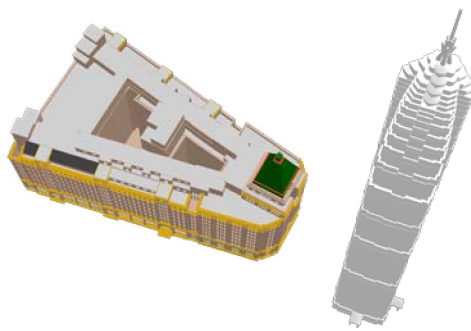
旧租界南部は、縮尺を前回の 1 万分の 1 から 7000 分の 1 に拡大して、詳細な図示を可能にした。周辺部では逆に、拡大する市域を小縮尺化によってカバーするなどの調整を行っている。これによって新南駅や万博会場を区分図内に収めた。また、急速に進んだ地下鉄網の整備に対応して、新たに地下鉄路線図を加えた。

②表示方法の改良

今回の改訂のもう一つの柱は、地図の表示システムの改良である。街区の空間の性質をいかに直感的にわかりやすく表現するかに腐心した。旧市街地の大改造が進む上海では、歴史的な街並みは都市の中心部からは急速に消え去りつつある。今回の改訂では、歴史的な街区と九十年代以降に大規模再開発されたゾーンとを濃淡の色分けなどによって区別して示した。

また、地図のビジュアル面での見やすさをもとめる改善を進めた。その要点のひとつは、旧版『上海歴史ガイドマップ』でも、部分的に採用していた立体的表示の本格的な導入がある。バンドの洋風建築群やその対岸の浦東地区の高層ビル群などの主要な景観ゾーンについて、建築物などの 3D 図像を、平面図上に配置した。これについては筆者がすでに試みた中国庭園の 3D 画像表示での経験が応用可能であった。立体データを「3ds MAX」「六角大王」などの 3D グラフィックソフトによって製作し、png 画像に書き出して地図上に貼り込んだ。

図3 和平飯店 (左)、金茂大廈の png 画像



旧版では、建造物の用途・機能による建物形状の色分けをおこなったが、改訂版においては、建築物の建造時期や構造によって、(1) 磚木構造を主とした各種の住宅建築、(2) 改革開放期以前のコンクリート建築、(3) 九十年代以降に建てられた高層ビル建築、(4) 寺院建築等にみられる伝統建築様式の四類に大別して、それぞれについてより具体的で臨場感ある図示方法を追求した。

また、上海での街歩き経験では、街路樹のたたずまいからも強い印象を受ける。とりわ

け旧フランス租界の街並みを彩るプラタナスなどの街路樹は、炎熱の夏の上海に得難い緑陰をもたらすものであった。これについても、今回の改訂ではできるだけ忠実に図上に再現することを試みた。

図4 改訂版第9図「復興西路」(部分)

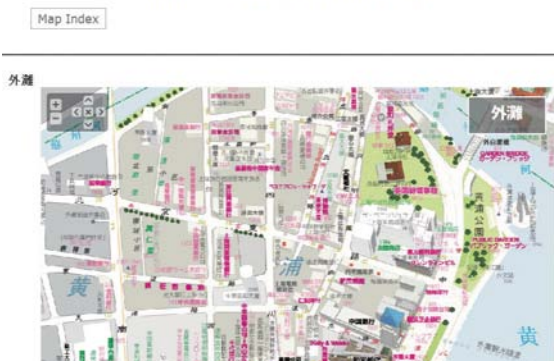


(2) 上海を映した過去のビデオ映像の整理

この歴史地図の改訂作業には、過去に公開された上海についての映像資料も活用された。その過程で、首都大学中文研究室が所蔵する中国関連のテレビ取材番組映像を中心とする村松ライブラリーを整理して、内容の細目を検索可能な目録として公刊した(後述5、[雑誌論文]②)。これにより、上海の80年代から世紀末にかけての街並み景観の推移状況を映像で検証することが容易になった。

(3) ウェブサイトでの歴史地図データ公開

図5 ウェブ上に公開した地図
SHANGHAI HISTORICAL MAP



2010年3月より、Web上の歴史地図サイトとして「historicalmap 2010 Shanghai」の公開を試行的に開始した。ここでは、単に紙の地図をウェブに載せるだけでなく、映像や

現場の音声などのマルチメディア的ハイパーテキストとして、上海の地図情報を提供することを試みている。クリックによって、文字による解説を示し、さらに境界の音像景観を提示する。音声データは上海在住の録音技師の **magnus danerek** 氏より提供を受け、サイト設計については、同じく上海在住のウェブデザイナー代島典子氏の協力を得た。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計2件)

① 木之内誠、地図の場所上海、地図情報、査読有、第30号、2010

② 木之内誠、須々木矩久、川野明正、中国アジア関連番組村松ビデオ・ライブラリー目録、人文学報、査読なし、第418号別冊、2009

[学会発表] (計1件)

① 木之内誠、上海歴史地図の改訂について、2008年5月16日、上海歴史文化研究会、首都大学東京

[図書] (計1件)

① 細川呉江、木之内誠 (5番目) ほか30名、北京探訪—知られざる歴史と今、pp. 58-65、愛育社、2009

[その他]

ホームページ等

① 前述 4,(3)の地図掲載サイト

<http://historicalmap2010shanghai.com/weblog>

② <http://virtualshanghai.net/>

"Virtual Shanghai: Shanghai Urban Space in Time" (リヨン大学東アジア研究所のクリスチャン・アンリオ氏による上海地図のデジタル・アーカイブス。筆者提供の上海旧地図の画像資料を含む。)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

木之内 誠 (KINOUCHI MAKOTO)

首都大学東京・人文科学研究科・教授

研究者番号：50195327